

編 集 後 記

ロンドン・オリンピックの真最中にこの編集後記を書いています。夜12時を過ぎたころからメインのプログラムに入る、という日々が続けますとさすがに体にこたえますが、翌朝目が覚めると、いましがたテレビで見た銀メダル、銅メダルの情報が全く欠落した朝刊が届いています。当たり前と言えば当たり前なのでしょうが、即時性で遅れを取る紙媒体はこのようにして一般の支持を失っていくのだなあと感じさせられます。

私は本誌が郵便投稿から電子媒体での審査に移行する端境期に編集委員を務め、もう8年目になります。当初は若干の戸惑いがありましたが、現在では投稿、査読ともにきわめてスムーズになり、未だ電子化されていないジャーナルからの査読依頼が苦痛になるほどになっています。電子審査の良いところは、画面全体を俯瞰しながら、自分の書いている文章を批判的に、リアルタイムに校正できることであろうと思います。ここを指摘すればもっとこの論文はよくなるだろう、ここは表現を変えた方がよい、もう少し

考察を深めてもらいたい、といった願いを込めたレビューが比較的短い時間で完成します。これは私だけに限ったことではなく、臨床神経学の査読全体のスピードは紙媒体当時と比べて格段に早くなっており、また、査読内容に対する投稿者からの感謝のお手紙、メールを戴く機会も増えています。私が英文雑誌で行うレビューはとてもこのレベルには達しません。臨床神経学という日本語雑誌のメリットのひとつは、日本語を介した著者と編集者の中身の濃いやりとりとにあり、電子化はとてもいい方向に貢献していると思います。

本誌の電子媒体への完全移行はほぼ肯定的に受け止められているようです。医局のソファに体を沈めて、コーヒーを飲みながら冊子体の臨床神経学をバラバラとめくる、という従前のありかたは近いうちに過去のものになるでしょうが、その時にはiPad等を使った新しい文献拾い読みのスタイルが定着しているのかもしれない。

(神田 隆)

〈 編 集 委 員 〉

編集委員長 中野 今治 編集副委員長 阿部 康二 鈴木 則宏
 編集委員 神田 隆 木村 和美 桑原 聡 瀧山 嘉久 野村 恭一 森 悦朗
 編集委員 (幹事兼任) 清水 潤 森 秀生 吉井 文均

〔臨床神経学〕 第52巻 第9号 平成24年9月1日発行
 編 集 者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル 一般社団法人日本神経学会
 発 行 者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル 水 澤 英 洋
 印 刷 所 〔郵便番号 114-0024〕 東京都北区西ヶ原三丁目46番10号 株式会社 杏 林 舎

発 行 所 〔郵便番号 113-0034〕 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル

日 本 神 經 学 会

郵便振替口座 東京00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス：<http://www.neurology-jp.org/index.html>